

まちのイメージと地域遺伝子 ー神楽坂の都市空間についてのグレイン分析ー

宇野研究室

4111003 有賀 彩花

1. 研究背景と目的

現在の日本のまちなみの多くは、経済的合理性、建設の効率化を追求した結果、パッチワークのような個性のない均一でまばらなまちを形成してきた。一方で神楽坂は、石畳や黒塀によって、東京において情緒を残すユニークなまちの代表として挙げられる。

そこで本研究では、人がそのまちに対して抱いているイメージとそのまちに継承される地域遺伝子を分析し、その関係性を明らかにすることによって、まちのイメージ形成のされ方を共有可能なかたちにする。さらに「まちらしさ」を維持した明日の都市デザイン手法を探り、他のまちにも応用できる、個性あるまちの計画方法を探ることを目的とする。

2. 研究対象

「変わりながらも変わらないまち」神楽坂における9つのまち、およびその沿道建築物を分析対象とする(図1)。

3. 研究方法、定義

3-1. 地域遺伝子およびグレインの定義

- ①地域遺伝子の定義：本論では、神楽坂のアイデンティティを支えている、まちの普遍的で重要なさまざまな要素を『地域遺伝子』と呼び、その中でも特に、視覚的に抽出することのできる、「建築」「空間」「街並み」「景観」について考察する。
- ②グレインの定義：特定のイメージ形成に寄与する共通の属性を持った要素を『グレイン』と呼び、グレインの分布や密度に着目して、まちのイメージを分析するグレイン論^{註1)}を用いる。

3-2. 研究方法

- ①：地域の人へのヒアリング、建築学生によるワークショップ、街頭アンケートからのイメージの抽出(4章)
- ②：フィールドワーク(2014.05.11-10.21)による地域遺伝子の抽出(5章)
- ③：グレインの類型、グレイン配置図の作成(6章)
- ④：①～③の分析による関係性の考察(6章)

4. イメージの抽出

4-1. イメージの抽出方法

- ①ヒアリング：神楽坂の老舗の方々(8店舗10名)を対象とし、「神楽坂のどこに、何に、まちらしさを感じますか。」という質問からヒアリングを始める。(2014.06.15、06.16、09.23)
- ②ワークショップ：東京理科大学宇野研究室の建築学生(20名)を対象とし、神楽坂を歩き発見した、まちの「宝物」「困

り物」を付箋に記入、地図へ貼る。(「宇野研究室春のワークショップ」2014.03.31)

③街頭アンケート：a-iの9つの「まち」にいる人(42名)を対象とし、神楽坂マップ^{註2)}のボードを使い、神楽坂らしさを感じる場所などの5項目(その理由、年代、居住地域、神楽坂へ来た回数)の質問を行う。(2014.09.30)

4-2. イメージの抽出

抽出したイメージをまとめると(表1)のように分類できる。アンケート結果の数値などから、a、g、hの3つの「まち」に神楽坂らしさを感じている人が多いことがわかった。この3つの「まち」に関する地域遺伝子の具体例として、「小さなお店の並び」「古い建物」「老舗」「坂」「路地」などが挙げられる。

5. 地域遺伝子の抽出

5-1. 神楽坂の地形と主な「まち」

私たちが都市の景観をイメージするときの大半が「まち」から見た景観である。そこで(図1)に示す、神楽坂の主な9つの「まち」について分析をする。それぞれの「まち」について、延長や勾配、沿道建築数、間口など詳細に分析^{註3)}し、表にまとめる(表2)。

5-2. 「まち」から抽出される地域遺伝子の空間分析

フィールドワークによりa-iの9つの「まち」それぞれから地域遺伝子を抽出することができたが、その中でも異なる遺伝子が抽出されたa、b、gの3つの「まち」について特筆する。a. 神楽坂通りにおいて、建物の1階はすべて店舗になっている。また、間口幅の平均は約8.1mであり、他の「まち」に比べると間口の小さな建築が連続している。このことによって、歩くにつれて小さな変化がおり、神楽坂通り独特のリズムが生まれる。また、「まち」と店舗の距離が近く、店内の様子や雰囲気を感じ取ることができる。小さな間口が連続している理由として、江戸時代の屋敷割が基盤となって

▼表1 イメージの抽出から獲得した地域遺伝子

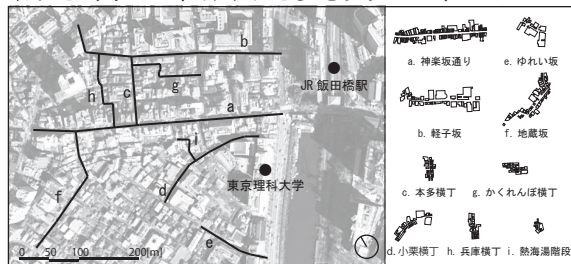
建築形状					建築機能										傾斜・地形					素材・装飾				その他					
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	
a	X	Y	X	Z							Z	Z	Z	Z	X	Z	X	Z						Z	Z				
b																													
c																													
d																													
e																													
f																													
g																													
h			Z	Z																							Z	Z	
i			Z										X	Z	Z	Z				Z	Z					Z	Z	X	Z
j													Z							Z	X	Z							

凡例 ●：共通 X：老舗の方々 Y：建築学生 Z：街頭アンケート 1：間口 2：小さなお店の並び 3：古い建物 4：古い建物の中に新しい店舗が入っているところ 5：個人の商店 6：フランスのお店 7：熱海湯 8：和洋・新旧の混在 9：和紙、紙質のお店の 10：お茶、和菓子の店 11：カナルカフェ 12：不二家 13：老舗 14：料亭 15：旅館 16：坂下からの風景 17：坂 18：路地 19：階段 20：行止歩み・入り組み 21：黒猫 22：石畳 23：街路樹 24：モノのはみ出し 25：歩いてる人 26：絵に異なる景色 27：隠れた家的雰囲気 28：草花など 29：色っぽい雰囲気

凡例 ●：共通 X：老舗の方々 Y：建築学生 Z：街頭アンケート 1：間口 2：小さなお店の並び 3：古い建物 4：古い建物の中に新しい店舗が入っているところ 5：個人の商店 6：フランスのお店 7：熱海湯 8：和洋・新旧の滞在 9：和紙、お香のお店 10：お茶、和菓子のお店 11：カルルカフェ 12：不二家 13：老舗 14：料亭 15：旅館 16：坂下からの風景 17：坂 18：路地 19：階段 20：行き止まり・入り組み 21：風簾 22：石畳 23：街路樹 24：モノのはみ出し 25：歩いている人 26：絵になる景色 27：隠れた家路 28：表者さん 29：色っぽい雰囲気

▼表2 分析表(g. かくれんぼ横丁部分抜粋)

かくれんぼ横丁(道路幅員2-3m)	A	B	C	D	計
延長(m)	71.1	18.1	10.4	46	145.7
起点(奥側)標高(m)	15	16.5	15.5	15	15
終点(表側)標高(m)	16	15.5	15	14.5	14.5
最低点(m)	15	15.5	15	14.5	14.5
最高点(m)	16	16.5	15.5	15	16.5
最高勾配(%)	1.4	5.5	4.8	1.1	5.5
平均勾配(%)	1.4	5.5	4.8	1.1	1.4
建築数(棟)	6	2	1	6	15
平均	5.5	1.5	1	5	13
間口(m)	8.9	18.1	10.4	9.2	9.7
平均	10.2	18.1	10.4	9.2	10.4
沿道建物階数(階)	2	2	2	3	2.3
平均	2.4	2	2	2.6	2.3
平均	2.2	2	2	2.8	2.3



▲図1 研究対象

いること、建物が急傾斜を含む坂に沿って立地していることが挙げられる。b. 軽子坂は神楽坂とは対称的に、人通りは少なく、主に物流を支える「みち」となっている。神楽坂通りには 19 世紀当時、階段が敷かれていたこと、軽子坂は両方向通行であることが理由として挙げられる。また間口の大きい建築が多い。g. かくれんぼ横丁は、石畳や黒塀、約 2-3m の幅員の路地、行き止まりや折れ曲がったみちなど建築物以外の地域遺伝子が多く受け継がれている場所である。(表 3)

6. イメージと地域遺伝子との関係性の考察

6-1. グレインの類型

以上の地域遺伝子のイメージと空間分析から、建築の形状、機能において地域遺伝子を受け継いでいるものを先天的、受け継いでいないものを後天的とし、G₁、G₂、G₃、G₄ の 4 種類のグレインとする(表 4)。

6-2. イメージとグレインの分布

分類したグレインを地図上に示す(図 2)。イメージの抽出の結果から、a、g、h のみちにおいて多くの人が「まちらしさ」を感じていることがわかった。それに比例するように、この 3 つのみちでは G₁ グレインの数が多い。これにより人は、形状、機能ともに地域遺伝子の色濃く受け継いでいるものにまちらしさを感じてると考えられる。G₄ グレインが多く分布するみちには人はあまりまちらしさを感じていないようだが、G₁ グレインが全くない状態がまちらしさだと述べることはできない。G₁-G₃ グレインの数とのバランスも重要である。また、視界に入る時間が長い場合、角地や突き当りに配置されているグレインの影響は大きいようである。










6-3. イメージとグレインの密度

同じ程度の数 G₁ グレインが分布している場所でも、h の「みち」のように密集している場所の方がより人はまちらしさを感じている。また、f の「みち」の北側のように円状に密集している場所よりも、a の「みち」のように直線的に密集している場所の方が与える影響は大きいようである。これは人がみちを歩きながらまちを見ているからだと考えられる。

▼表4 グレイン分類表

		建築の形状からみた分類	
		先天的形状	後天的形状
建築の機能からみた分類	先天的機能	G ₁ 間口が小さいかつ店舗がみちに面している1階に個人の店舗が入っている建築物 例)山下漆器店	G ₂ 間口が大きいまたは店舗がみちに面しておらず1階に個人の店舗が入っている建築物 例)さわや
	後天的機能	G ₃ 間口が小さいかつ店舗がみちに面している1階にチェーンの店舗が入っている建築物 例)モスバーガー	G ₄ 間口が大きいまたは店舗がみちに面しておらず1階にチェーンの店舗が入っている建築物 例)パンコ店

▼表3 みちの分析表

みちの名称	a. 神楽坂通り	b. 軽子坂	c. 本多横丁	d. 小栗横丁	e. ゆれい坂	f. 地藏坂	g. かくれんぼ横丁	h. 兵庫横丁	i. 熱湯湯階段
写真									
道路幅員	10-12m	5-8m	2-3m	2-3m	2-3m	2-3m	2-3m	1-5m	2-3m
延長	428.0m	384.3m	116.5m	203.6m	126.6m	368.2m	145.7m	143.0m	71.0m
起点標高	7.0m	5.0m	18.0m	16.0m	7.0m	15.0m	15.0m	10.5m	18.0m
終点標高	14.0m	9.5m	13.5m	9.0m	17.5m	19.0m	14.5m	14.5m	13.0m
最低点	7.0m	5.0m	13.5m	9.0m	7.0m	15.0m	14.5m	10.5m	13.0m
最高点	18.0m	15.0m	18.0m	16.0m	17.5m	27.0m	16.5m	17.5m	18.0m
最高勾配	5.0%	6.4%	3.9%	5.0%	14.3%	11.4%	5.5%	12.5%	19.2%
平均勾配	3.0%	2.6%	3.9%	3.4%	8.3%	3.3%	1.4%	4.9%	7.0%
建築数	102棟	41棟	32棟	49棟	10棟	63棟	29棟	25棟	14棟
平均間口	8.1m	19.7m	7.4m	8.6m	26.4m	11.7m	10.1m	11.6m	10.4m
平均沿道建物階数	4.45階	5.0階	3.0階	2.9階	5.5階	3.4階	2.3階	2.4階	2.8階
分析	間口は狭いが高い建築物人通りが少なく、物流を支えるみちとして利用された店舗が多い。神楽坂通りが豊かであったため、銭を伴う急な坂道である。間口の広い通りと軽子坂を結ぶみちで湯やクリーニング屋、豆オファビル、マンションで、もっとも標高の高い等であった建築物は当時の板をつなぐ路地である。の字に折れ曲がっている。面影を残し、フランス料理店と坂が石畳の路地を連店などになっている。形成している。	和洋・新旧の入り混じった小川が流れ湧き高低差11mで、カーブを伴う急な坂道である。銭を伴う急な坂道である。間口の広い通りと軽子坂を結ぶみちで湯やクリーニング屋、豆オファビル、マンションで、もっとも標高の高い等であった建築物は当時の板をつなぐ路地である。の字に折れ曲がっている。面影を残し、フランス料理店と坂が石畳の路地を連店などになっている。形成している。	和洋・新旧の入り混じった小川が流れ湧き高低差11mで、カーブを伴う急な坂道である。銭を伴う急な坂道である。間口の広い通りと軽子坂を結ぶみちで湯やクリーニング屋、豆オファビル、マンションで、もっとも標高の高い等であった建築物は当時の板をつなぐ路地である。の字に折れ曲がっている。面影を残し、フランス料理店と坂が石畳の路地を連店などになっている。形成している。	和洋・新旧の入り混じった小川が流れ湧き高低差11mで、カーブを伴う急な坂道である。銭を伴う急な坂道である。間口の広い通りと軽子坂を結ぶみちで湯やクリーニング屋、豆オファビル、マンションで、もっとも標高の高い等であった建築物は当時の板をつなぐ路地である。の字に折れ曲がっている。面影を残し、フランス料理店と坂が石畳の路地を連店などになっている。形成している。	和洋・新旧の入り混じった小川が流れ湧き高低差11mで、カーブを伴う急な坂道である。銭を伴う急な坂道である。間口の広い通りと軽子坂を結ぶみちで湯やクリーニング屋、豆オファビル、マンションで、もっとも標高の高い等であった建築物は当時の板をつなぐ路地である。の字に折れ曲がっている。面影を残し、フランス料理店と坂が石畳の路地を連店などになっている。形成している。	和洋・新旧の入り混じった小川が流れ湧き高低差11mで、カーブを伴う急な坂道である。銭を伴う急な坂道である。間口の広い通りと軽子坂を結ぶみちで湯やクリーニング屋、豆オファビル、マンションで、もっとも標高の高い等であった建築物は当時の板をつなぐ路地である。の字に折れ曲がっている。面影を残し、フランス料理店と坂が石畳の路地を連店などになっている。形成している。	和洋・新旧の入り混じった小川が流れ湧き高低差11mで、カーブを伴う急な坂道である。銭を伴う急な坂道である。間口の広い通りと軽子坂を結ぶみちで湯やクリーニング屋、豆オファビル、マンションで、もっとも標高の高い等であった建築物は当時の板をつなぐ路地である。の字に折れ曲がっている。面影を残し、フランス料理店と坂が石畳の路地を連店などになっている。形成している。	和洋・新旧の入り混じった小川が流れ湧き高低差11mで、カーブを伴う急な坂道である。銭を伴う急な坂道である。間口の広い通りと軽子坂を結ぶみちで湯やクリーニング屋、豆オファビル、マンションで、もっとも標高の高い等であった建築物は当時の板をつなぐ路地である。の字に折れ曲がっている。面影を残し、フランス料理店と坂が石畳の路地を連店などになっている。形成している。	和洋・新旧の入り混じった小川が流れ湧き高低差11mで、カーブを伴う急な坂道である。銭を伴う急な坂道である。間口の広い通りと軽子坂を結ぶみちで湯やクリーニング屋、豆オファビル、マンションで、もっとも標高の高い等であった建築物は当時の板をつなぐ路地である。の字に折れ曲がっている。面影を残し、フランス料理店と坂が石畳の路地を連店などになっている。形成している。

脚注：註1) 既往研究 グレイン論による都市イメージ分析 福井恒明、篠原修、小野圭介 註2) 神楽坂商店会作成のもの 註3) みちの分析は NPO 法人「粋なまちづくり倶楽部」のデータをもとに再調査を行った
参考文献：1) まちの遺伝子-「まちづくり」を叱る 堀池秀人 著、2) 粋なまち神楽坂の遺伝子 NPO 法人粋なまちづくり倶楽部 著

7. 結論と展望

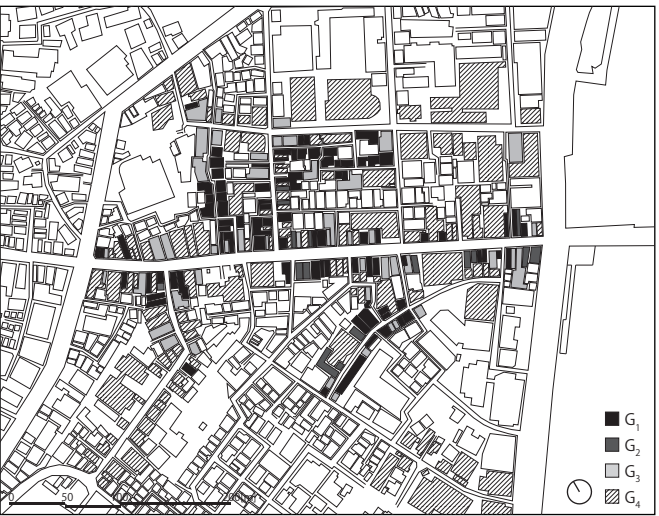
7-1. 結論

- 本研究によって、以下のことが明らかになった。
- ①人が抱いているイメージと地域遺伝子との関係性は大きく、g. かくれんぼ横丁などの地域遺伝子が色濃く受け継がれている場所に人はより、まちらしさを感じている。
 - ②グレインの数が同じでも分布の仕方、場所、密度によって人のイメージに与える影響は変わる。特に角地や突き当りにあるグレインの与える影響は大きい。
 - ③建築物だけでなく、地形や道路の幅員、素材といったものにも人はまちらしさを感じている。

以上のことから、地域遺伝子を認識することによって、部分として人々のニーズや流行に応じ続けていくとしても、「まちの個性や魅力」を失うことはない。

7-2. 展望

地域遺伝子を明らかにし、それに見合ったこれからの都市デザインを行うことができれば、神楽坂においてだけでなく、近代的合理性や効率を追求した画一的な日本の都市計画制度に一石を投じるものになるかもしれない。本研究をもとに現在神楽坂地域が直面している「大久保通り拡幅問題」「JR 飯田橋駅移設問題」「防災上の路地拡幅問題」などの問題を検討し、また、他のまちにも応用し、まちの個性を尊重した都市デザインを行っていく。



▲図2 グレイン配置図